

探究・校務改革 支援補助金 2025

令和6年度補正予算
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

効果報告レポート

【事業者名】

特定非営利活動法人SOMA

【サービス名称】

探究の高度化に向けた「英語×テクノロジーによる創造的思考・STEMリテラシー・問題解決能力の 実践的育成教育プログラム」の校内実装

【サービスの支援項目】

カテゴリ-1 探究的な学びの高度化 メインサービス

カテゴリ-2 探究的な学びの高度化 オプションサービス

2026年1月



ZERO2MAKER SM
Creating Tomorrow's Entrepreneurs

■探究・校務改革支援サービスの概要

1. サービスの概要、特徴

■サービス概要(全体)

探究の高度化に向け、海外で研究・先行実施されている「英語×テクノロジーによる創造的思考・STEMリテラシー・問題解決能力の 実践的育成教育プログラム」の実装・定着をすすめるサービスです。
メインサービスでは生徒向けの校内実装を行い、オプションサービスでは学校・教員向けの実装及び定着への伴走支援を行います。

■カテゴリ-1 探究的な学びの高度化 メインサービス

(1)導入によるメリット、類似サービスとの違い等

現在の探究ではカバーできない実践経験を、STEMや言語といった多様な学習と組み合わせながら実施します。
多様な教材の中から学校の課題意識やテーマに合わせて選択が可能となっており、地域や学校に合わせたプログラムの実装が可能です。また、ミネルバ大学の生徒やマサチューセッツ工科大学(MIT)での研究者等、グローバル環境下での実践経験者と関わる機会が組み込まれており、普段の学校活動では調整が困難な学びの機会を得ることができます。

(2)学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

現在の探究学習に不足する、探究と実際の課題解決の間にある実践経験「Pre-entrepreneurship」を、STEMや言語といった多様な学習を組み合わせながら提供します。生徒は、実際のものづくりを通じた課題解決経験を積むことができます。

(3)サービスの活用場面

教科学習・教科を横断した総合学習等の時間、課外活動 等

(4)1サービスあたりの標準販売価格(税抜)

4,020,000円(1校) ※最大3学年まで。4学年以上を対象とする場合は3学年ごとに1校と扱います)

■探究・校務改革支援サービスの概要

1. サービスの概要、特徴

■カテゴリ1-2 探究的な学びの高度化 オプションサービス

(探究の高度化に向けた「英語×テクノロジーによる創造的思考・STEMリテラシー・問題解決能力の 実践的育成教育プログラム」実装に向けた教員・学校支援)

(1)導入によるメリット、類似サービスとの違い等

現在の探究ではカバーできない実践経験を提供することのできるSTEMや言語といった多様な学習を、多様な教材や動画等を組み合わせたプログラムが選択可能であり、同様の授業の提供をより省力で提供が可能です。また、同様の活動を行うLabの校内設置や、学習を継続するためのグローバルでの進路支援など、学校内での継続的な学びの機会の提供等を学校の状況やニーズに合わせて提供を行います。

(2)学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

現在の探究学習に不足する、探究と実際の課題解決の間にある実践経験「Pre-entrepreneurship」を、STEMや言語といった多様な学習を組み合わせながら提供します。教員は同プログラムの活用や、プログラム終了後の学習、次年度等の継続的な提供に関するノウハウを習得することができ、学校では同様の学習を継続する環境の構築を進めることができます。

(3)サービスの活用場面

教科学習・教科を横断した総合学習等の時間、課外活動の前後、次年度カリキュラムの検討会 等

(4)1サービスあたりの標準販売価格(税抜)

780,000円(1校) ※中高一貫校等、複数の機関を横断する場合も、各教育機関ごとに1校と扱います

2. サポート内容

同学習に関する経験豊富な弊団体スタッフの他、同プログラムの開発者(マサチューセッツ工科大学研究者)、海外起業家や海外探究先進校の学生メンター等、多様なスタッフによるサポートを提供します。

■ 学校等教育機関の課題と解決策

探究学習と実際の地域課題解決の間にある「断絶」を解消するため、STEM等を組み合わせたものづくり・アウトプット型の一気通貫プログラムを学校内で提供します。加えて教材・カリキュラム整備や教員支援、キャリア支援等、学校に合わせた支援で継続実装と自走環境を構築します。

児童生徒・教職員が抱える課題

現在学校で提供される探究学習を受ける児童生徒が抱える課題として、探究学習と実際の課題解決に向けた活動との断絶（ジャンプ）があります。

授業による探究学習が充実して行われていても、次のステップとして実際の地域等の課題解決の活動を起こそうとしたときに、ハードルを感じる生徒が多く、活動がなかなか立ち上がらない、という現象が様々な学校で確認されました。

これには、課題解決に対する具体的な行動（アウトプット）の経験が足りず、「一歩目として何から着手したらいいかわからない」「必要なものはわかるが、どうプロダクトをつくったらいいかわからない」といった経験値の不足や、これらをつくるためのベースの知識の不足、「自分にできるのか」という自信の欠落など、多様な要素が複合的に存在しています。

また、学校側の課題として、継続的な探究学習を提供する環境構築があります。授業で充実した探究の機会を提供した後、生徒が自主的に探究を行う環境や場面の提供は、教員の個人的な資源（関わり等）による部分が多く、負担等においてもばらつきがあります。進路先等も含め、継続的な学習機会の環境の構築を学校として行っていく必要があります。

サービスが果たす役割

本プログラムでは、探究学習の先に課題解決の活動を行うために求められる要素を「Pre-entrepreneurship」と定義し、STEMや言語といった多様な学習を組み合わせながら、実際の「ものづくり」とそのアウトプットによる課題解決を体験するプログラムをパッケージとして提供します。

また、同プログラムが学校内・地域内で自走的に実現できる環境づくりを通じて、探究学習の先にある課題解決の歩み方を提供します。

具体的には、事前学習～オフサイト講義～ワークショップ～メンタリングといった形で、STEMリテラシーから課題解決の実戦経験まで、一気通貫で体験するプログラムを、学校内で提供します。

また、同プログラム内で、学校のニーズや状況に合わせた継続実装支援（教材の継続活用に向けたカリキュラム整備や教員によるデリバリ支援、プログラム後のキャリア支援の仕組み）を行ない、教員の資源に寄らない継続的な環境の構築を支援します。

■ 探究・校務改革支援補助金における活用場面

サービスの活用風景・授業の流れ

1. 学校のニーズヒアリング・教材の提供

学校における現在の課題感や、今回のプログラムで主としたいポイントをヒアリングで整理し、導入プログラムを設計、弊団体のコンテンツの中から使用教材を選択し組み合わせで準備します



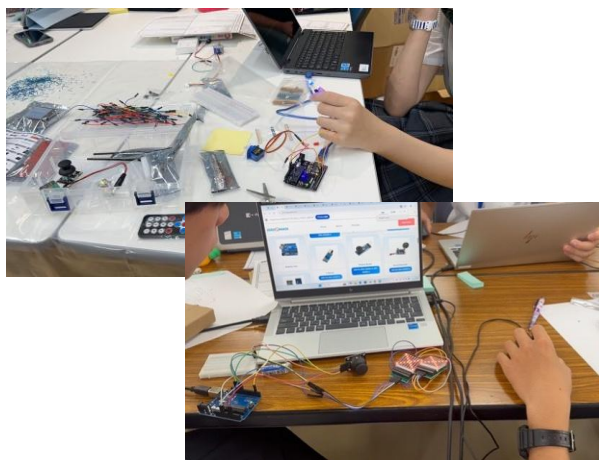
2. 動画授業の実施

プログラムに合わせて、チューニングされた動画講義を元に、プログラムに必要な知識をワークショップ前後でのインプットを行います



3. 講演・ワークショップ等の実施

プログラムの内容に合わせて、海外有識者や起業家等を招聘した講演や、課題の解決につながる“ものづくり”を行うワークショップを組み合わせ、複数回実施。実践経験を積む機会を作ります



4. 海外大学生・研究者等のメンタリング

今回のプログラムの実施に合わせて、生徒グループへのメンタリングを、海外研究者や同様の活動に取り組むグローバル大学生が実施。プロダクト検証やプレゼンへのサポート、振り返りを行います



本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数

12

学校等教育機関数

15校

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	学校法人堀井学園	横浜創英高等学校	神奈川県	高等学校	高1～高3	探究
2	学校法人愛光学園	愛光中学校・愛光高等学校	愛媛県	中学校 高等学校	中3 高1	総合学習（課外学習含）
3	学校法人鶏鳴学園	青翔開智中学校・青翔開智高等学校	鳥取県	中学校 高等学校	中1～3 高1～3	英語・課外活動
4	学校法人ワオ未来学園	ワオ高等学校	岡山県	高等学校	高1～3	総合学習
5	学校法人済美学園	済美平成中等教育学校・済美高等学校	愛媛県	中等教育学校・ 高等学校	中等4年 高1	総合学習（特別授業含）
6	茨城県教育委員会	茨城県立勝田中等教育学校	茨城県	中等教育学校	中等3～5年	英語・課外活動
7	学校法人明法学院	明法中学校	東京都	中学校	中1	英語・課外活動
8	大阪市教育委員会	大阪市立佃中学校	大阪府	中学校	中1～中3	総合学習（英語等）
9	学校法人嶋田学園	飯塚高等学校	福岡県	高等学校	高1～高3	探究
10	学校法人鹿児島純心女子学園	鹿児島純心女子高等学校	鹿児島県	高等学校	高1～高2	総合学習（課外活動含）
11	NPO法人フリースクールMINE	フリースクールMINE	鹿児島県	フリースクール	—	団体活動（フリースクールの為、教科無し）
12	佐賀県教育委員会	佐賀県立多久高等学校	佐賀県	高等学校	高1～高3	総合学習（英語等）

【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証

「Pre-entrepreneurship」による
実践経験を積んだ生徒数

4,981名

プログラムを通じた
Pre-プロダクト数*

240個

※プログラム内ワークショップでの
開発の他アフターでの実施等
を含めた概算

*受講した生徒たちがプログラム内で開発した
サービスや製品(プロトタイプ含)の数

プログラムを通じ、キャリアへの
接合に動き出した生徒数(最小)

98名

※プログラム後、学校を通じて同様の
学びを行う具体的な海外進学先や理
系進学先、国内の同様の学校への進
学相談が弊団体担当に届いた生徒
数(25年12月末時点)で算出。

実施先のほぼ全校から相談があり、う
ち2割強の学校からは弊団体講師へ
の同様の学びを提供する大学への進
学に関する支援者(アドバイザー)等
への就任相談に繋がった

教職員の業務省力化時間
(実働時間)

3,420時間

※プログラムの特性上、完全に同一の
質を有するものは困難ではあるが、同
様のプログラムを学校内で内作した
場合の概算を、参加した教員数で乗
じたもの。

概算根拠:1名あたり60h
*企画・設計12h/コンテンツ開発
30h/事前学習10h/WS24h 学校の
ICT機材差対応 6h/連絡・校内調整
18h/メンタリング等外部調整12h/実
施報告・成果整理4h より本プログラ
ムとの差分を除いて算出

【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定性的効果検証

生徒の Pre-Entrepreneurshipが
高まり、姿勢や行動が変更した

- ・(事象) 生徒がプログラム内でつくったプロダクトやプランを元に、ビジネスコンテストに挑戦、通過した
- ・(事象) 同様のイベントや、ビジネスコンテストの情報を求める生徒が増えた
- ・“何回も失敗して、経験したことのない頭の使い方をして。最後に思った商品が作れた。自分がびっくりした。悩んだのも失敗したのも、面白くて楽しかった”(プログラム後生徒コメントより)
- ・“全体として、自信をもち行動する生徒が増えたと感じています。特に、苦手に感じていた英語などへの抵抗が減り、やってみようという生徒が増えました”(プログラム後教員コメントより)

生徒の キャリア感が、変化した(STEMや海外と、自分の将来のつながりを認識した)

- ・(事象) 生徒が理系の学部や、海外大学への進路に関する相談をするようになった。
教員へ相談の他、弊団体への直接相談がほぼ全ての実施先の生徒から発生した
- ・“プログラミングが想像以上に楽しかった。これまで自分が勝手に敬遠していたけど、自分がやりたいことに使えることがわかって、もっと勉強したくなった”(プログラム後生徒コメントより)
- ・“特に海外進学に対する相談が増えており、学校としても相談体制をより強化しなくてはいけない、という話になっています”(振り返り時の教員コメントより)

学校内の STEM/探求学習の実施環境および教員含む校内マインドが向上した

- ・(事象) 生徒が3Dプリンターの使用に慣れ、使用希望が増えたため、配置を再検討することになった
これまでPC部の部室の隅にあった機器が配置換えされ、アクセスしやすくなり、稼働率が増加
- ・(事象) 今回のプログラムに向け手配した機器の活用を進めるPJが学内で立ち上がり、
更なる充実化学校内で議論が進んでいる
- ・“テクノロジー、英語といった自分の専門外の科目に障壁を感じていた教員も、プログラムを経験することで、自分もそういった授業ができる、と変わっていているのを感じました”(プログラム後教員コメントより)

プログラム
参加生徒

- こんな短期間で完成した商品をつくりあげ、英語で発表することができて、自分が自分でびっくりしています。思ったより自分はできるんだな、チームにも貢献できるんだな、と感ずることができたのが大きかったです
- STEMと聞いて、正直、私からは遠いものだと思っていました。でも、実際にやってみると、思ったよりも楽しく、没頭してしまいました。今まで経験したことのない頭の使い方をして、面白かったです
- デザインセンスはないとおもっていたけど、センスではなく、ルールと考え方があって、それに基づいて作った時、自分の作ったものに驚きました。もっともっと学んでみたいです

導入校
教員

- 正直、生徒たちにはすこしハードルが高いのではないかと思っていました。でも、生徒たちが、難しいことに取り組んでいるにも関わらず、いきいきとしている様子を見て、彼らの可能性を再確認することができました
- 英語を学ぶのではなく、英語でアウトプットする、という活動の意義を感じました
- プログラムの後、生徒たちが連なって講師たちのところに「もっと知るには何を学ばいいか」「こういうことを学ぶにはどこにいけばいいのか」を質問していく姿を見て、彼らの心に火が付いたことを嬉しく思いました

学校間のIT設備差やセキュリティ制約、教員のIT習熟・教科横断への心理的不安といった部分が課題として確認された。また、地方では進学・研究・事業化の後続支援ニーズも顕在化した。機材パッケージの対応拡大、実装順の見直しと長期設計、教員向け事前支援や生徒の支援の充実化等を目指す。

直面した課題

【学校による設備の開き】導入時、ITに関する設備が学校により開きがあり、学校で細かいカスタマイズが必要となった。具体的には、一人一台PCで特定タブレットを使用している学校では、プログラムで使用する機材が接続できず、所定時間の超過や急遽別のワークへの切り替えの発生などがあった。また、セキュリティの関係で他の学校で使用可能なツールがある学校では使用できないなど、設備の違いにより想定外の事象が複数発生した。

【教員の心理的障壁】教科横断型（STEM/英語/探究）でのプログラムの為、主となる授業の担当教員によっては、心理的に不安を抱える（例：文系の教員等）ケースが確認された。また、全体としてITに関する習熟にばらつきがあり、事前でのレクチャーをより丁寧に行う必要があった。

【その他】プログラム後の延長線（その後の進学・研究や、ビジネス化に向けた取り組みなど）が、特に地方の学校においては乏しく、現在の支援よりも想定を越えるニーズが確認された

解決するための改善策

- プログラム提供の仕組みとして、現在はマスの学校に対応する機器類の仕様となっているが、より広い対応が可能となるパッケージを今後展開する必要がある。また、プログラム提供の順を入れ替え、実装に向けた環境構築から実行する等、今回の半年での初回実装よりもよりロングスパンでの実装プログラム化も整える必要がある
- 現在は教材の提供やレクチャーといった事前準備となっているが、教員向けのプリプログラムなどの提供など、より教員向けサポートコンテンツを充実させていく必要がある
- 現在のアフタープログラムは学校への定着を中心としたものとなっているが、キャリア（進学）支援や、プロダクト化支援等、生徒個人への支援プログラムや仕組み化（情報の提供等）を行う必要がある

■会社概要

社名 (団体名)	特定非営利活動法人SOMA
代表	瀬戸 昌宣
設立年月	2017年5月
本社	福岡県福津市
資本金等	—
売上高等	25,080千円
従業員等数	6名
事業内容	「ひとが育つ環境をととのえる」をミッションとした、オルタナティブな学びの機会と環境づくり事業 (1) 学習支援事業 • 独自の教育プログラム、学校教育の支援、社会教育・生涯学習の企画・実施 • 学校外教育の環境とプログラムの提供、公共図書館の環境改善・運営 (2) 環境保全事業 • 苗作り、植樹、登山道整備などを通じた里山の自然環境の再生

■お問い合わせ窓口

担当:瀬戸 昌宣

電話:05058961785

Mail:cfr@nposoma.org